

特別支援学級 美術科学習指導案

1 単元名 「絵手紙」 ～友達の手紙のよいところを探し発表しよう～

2 単元の評価規準

美術への 関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
自然や身近なものを深く観察し、よさや美しさを感じ取ったり発見しようとする。	ものの見方・感じ方を深め発想を豊かにすることができる。	形や色彩の特徴や美しさなどをとらえ、生き生きと表現することができる。	感性や想像力を働かせて、作品のよさや美しさを感じ取り、発表することができる。

3 指導観

- 本単元で取り組む絵手紙は、身近な素材を見たまま感じたままにはがきに描くというもので、基本的な技法はあるものの、それが絶対的ではなく自由度が非常に高いものである。そのため、技能のことをあまり気にせず表現するよろこびを味わわせたり、一人で作品を完成することによる達成感を味わわせることができる。

本単元においては、絵手紙の学習を通して、下絵を描くときの技法、彩色の仕方などの理解を深めるとともに、完成した絵を学級の中で披露し、お互いのよさに気づき、それを認め合うことで、次への創作意欲を高めることを主なねらいとしている。

- 本学級は、1年生男子2名、1年生女子1名、2年生女子2名の計5名の生徒で構成されている。全員が絵を描くことが好きで、休み時間に自由帳に絵を描いたり、行事の時に黒板を絵で装飾して楽しんでいる姿が見られる。1学期には、学級旗の制作を通し、原画の作製、下描き、彩色という工程を経験し、決められた部分に決められた色を線からはみ出さないように塗るということを学習している。
- 本単元の指導にあたっては、絵手紙の基本的な技能を修得し、一人でスケッチし、彩色し、文字を書いて作品を完成できるようにする。また、完成した作品を学級の中で鑑賞し合い、他の生徒の作品のよいところを自分の言葉で発表できるようにする。そこでは表現することのよろこびや、達成感を味わわせることができるようにするとともに、次への創作意欲を高めることができるようにする。

4 指導計画及び評価計画（16時間）

配時	主な学習活動・内容	評価規準
1 5 10	絵手紙についての導入 基本技能の練習（下絵・彩色・文字） 一連の流れの定着と鑑賞（本時14 / 16）	関：題材に関心を持とうとしている。 発：自分らしい表現の構想を練ることができる。 技：自分の表現内容に適した技術・技能を見つけだすことができる。 鑑：友人の作品のよさを感じとり発表することができる。

5 本時 第5校時 教室

6 本時の目標

○友達の絵手紙のよいところを見付け自分の言葉で伝えることができる。

7 本時指導の考え方

本時指導にあたっては、友達の絵手紙のよさを見付け、伝え合うことにより、作品制作のよろこびや達成感がより大きなものとなり、次への創作意欲が高まるようにする。

8 準備

下絵を描いたはがき、彩色筆、パレット、顔彩絵の具、水入れ、ぞうきん、筆ペン
フェルト下敷き、印、朱肉

9 本時の展開

配時	学習活動・内容	指導上の留意点	集団づくりを生かす手だて	評価規準 <評価の方法>
3	1. 本時のめあてを確認する。 友達の絵手紙のよいところを発表しよう。	・めあてを板書し、復唱させる。	気持ちをこめて、みんなで声を合わせて復唱するよう促す。	
2	2. 道具を確認する。	・一つずつ確認する。		
5	3. 彩色の手順表を見ながら注意を聞く。	・彩色の手順表を黒板に張り、ゆっくり、はっきりと説明する。		
15	4. 下絵を描いたはがきに彩色する。	・机間指導をし、彩色活動が滞っている生徒に対して支援する。		
10	5. 彩色したはがきに文字を入れ印を押す。	・机間指導をし、文字入れ活動が滞っている生徒に対して支援する。		
10	6. 完成した絵手紙を鑑賞し、友達の作品のよいところを発表する。	・「よいところ」を探したり、発表することが苦手な生徒には、「よいところ」を探す手だてを載せたプリントを活用し、発表させる。	今までの集団づくりの成果による、何でも話せる学級の雰囲気と仲間を信頼する関係を利用し、発表させる。	鑑:友達の作品のよさを感じとり、自分なりの言葉で発表することができる。 <表情・発言>
5	7. 本時学習の評価と次時の予告を聞く。	・姿勢を正して注目させる。		

集団づくりの取り組み年間計画（ ）年

	取り組み内容	ねらい
4月		
5月		
6月		
7月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		